

◆デイリー・プログラム(1日の生活の流れ)

時間	0歳児	1・2歳児	3・4・5歳児
7:30	順次登園 視診・検温	順次登園 視診	順次登園 視診
8:30	あそび	あそび	あそび
9:00			
9:30	牛乳	牛乳 クラス活動	クラス活動
10:30			
	離乳食		
11:00		食事	
	睡眠	午睡	食事
12:00			午睡
13:00			
	あそび		
14:00	離乳食		
15:00		おやつ	おやつ
	あそび		
16:00		あそび	あそび
	順次降園	順次降園	順次降園
18:30	時間外保育	時間外保育	時間外保育
19:30	時間外保育終了	時間外保育終了	時間外保育終了

※生活の流れは月齢や年齢などによって変わる

◆当園の実施事業

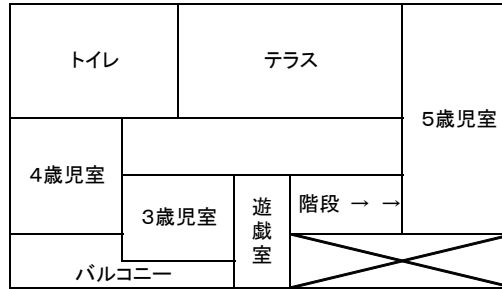
特別支援保育 産休明け保育 一日保育士体験
時間外保育 子育て体験

◆非常災害対策

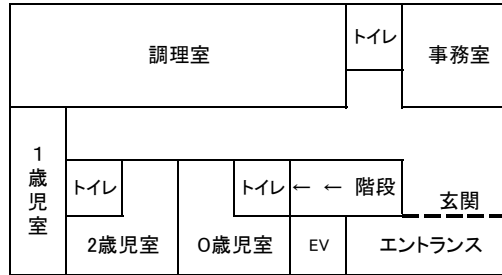
- 1 災害時に備えて毎月避難訓練を実施する
- 2 広域避難場所 大井競馬場・しながわ区民公園

◆園舎平面図

2階



1階



園庭

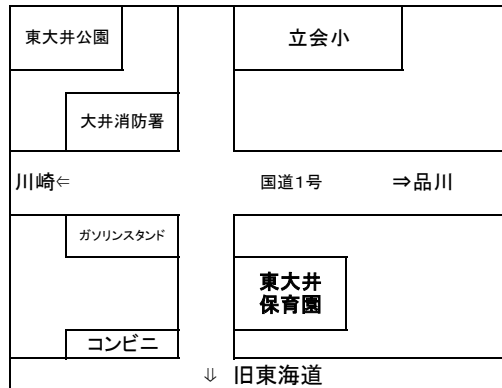
品川区立

東大井保育園の概要



◆交通機関および最寄り駅からの地図

京浜急行線 鮫洲駅下車 徒歩10分



〒140-0011

品川区東大井1丁目22番16号

電話・FAX 3471-1190

事業の概要

◆名称 品川区立東大井保育園

◆沿革 昭和43年 開園
59年 11月 大規模改修
産休明け保育開始
延長夜間保育開始
平成12年 4月 子育て体験事業
17年 4月 スクールステイ事業
23年 4月 仮設園舎へ移転
令和 2年 9月 建て替え工事完了・移転
4年 9月

◆園児定数

3歳未満児	3歳児以上	計
40名	60名	100名

◆職員配置数

園長	副園長	保育士	看護師	用務	計
1名	1名	14名	1名	1名	18名

◆施設概要

(ア)敷地 690.87 m²
(イ)構造 鉄骨造・地上3階建て
(ウ)建物面積 418 m²
(エ)延べ床面積 672.7 m²
(オ)屋外遊戯場 89.69 m²

◆設備内容

名称	室数	名称	室数
0歳児室	1	調理室	1
1歳児室	1	事務室	1
2歳児室	1	休養室	1
3歳児室	1		
4歳児室	1		
5歳児室	1		
遊戯室	1		

◆基本開園時間

※延長夜間開園時間 午後6時30分～午後7時30分
※短時間認定の延長保育は、基本時間内で8時間を
超えた場合

◆休園日

日曜日、国民の休日(振替休日を含む)
年末年始(12月29日～1月3日)

◆年間保育行事計画 ★保護者参加行事 ☆祖父母参加行事

4月	こどもの日のつどい	10月	定期健康診断 ★運動会
5月	定期健康診断 歯科検診	11月	★きらきらの会
6月	眼科検診 ★夏まつり	12月	お楽しみ会
7月	プール開き 七夕のつどい	1月	もちつき会
8月	プール閉い	2月	豆まき会
9月	☆コスモス会	3月	ひなまつり ★卒園式 ・進級式

<毎月の行事> 避難訓練 身長体重測定

<その他> 園外保育 保護者会 個人面談 0歳児健診
保育参観 保育士体験

<MEMO>



◆東大井保育園で大切にしていること

<園目標>

- ・元気にのびのびと遊ぶ子ども
- ・いろいろなことに興味を持ち、意欲を持って取り組める子ども
- ・友達を大切にする子ども

<0歳児の保育>

愛情豊かな大人との応答的な関わりを通して、情緒的な絆を形成し、愛着関係や基本的信頼感を得られるようにしています。安全で、安心して過ごせるよう十分に配慮された環境の下で、「健やかにのびのびと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」など、自らの生きようとする力を育てています。

<1, 2歳児の保育>

基本的な運動機能が次第に発達し、排泄の自立のための身体的機能も整うようになっていきます。また、指先の機能も発達し、食事や衣類の着脱を自分で行うようになります。自分でできることが増えてくる時期に合わせて、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに、愛情豊かに応答的に関わるようにしています。また、小集団での保育を行い、興味関心に沿って、この時期の子どもにふさわしい生活や遊びの充実が図られるようにしています。

<3,4,5歳児の保育>

運動機能がますます発達し、様々な遊びに挑戦して活発に遊ぶようになり、生活習慣においても、ほぼ自立できるようになります。また、言葉の数が急激に増加し、知的興味や関心が高まり、集団的な遊びや協働的な活動が大切になる時期です。友達と活動する中で共通の目的を見だし、工夫したり、協力したり出来るような言葉かけを大切にしていきます。

<異年齢児交流>

「様々な年齢の子どもたちがともに生活する場」という保育所の環境を生かし、自然な形で年上、年下の子どもと交流することによって、多様な体験を得られるようにしています。年下の子どもへのいたわりや思いやりの気持ち、年上の子どもへの憧れなど、異年齢の子どもたちが関わり合うことで、遊びや活動がより豊かなものになります。

<保幼小連携>

近隣の小学校と連携・協力し、園児が学校環境に慣れ親しむ機会をつくり、学校生活に期待や意欲をもって就学できるようにしています。